

「書と生活デザインの親和性を高める主体的活動の実践」

授業者 岐阜県立岐阜城北高等学校 教諭 駒瀬 公哉
対象 第1学年 17名
科目 書道 I
内容のまとめ 「漢字の書」 A表現・B鑑賞

<単元設定の理由>

令和4年度より新学習指導要領が実施されている。日々変化のめまぐるしい昨今の情勢において、現代を生きる生徒たちに知・徳・体にわたる「生きる力」を育てていくために「何のために学ぶのか」という意義を持たせるべく、教育活動をこれまで以上に充実させる必要性が求められている。その点において芸術科書道は古くから実用的な技能として重要視されてきた歴史があり、長い時間の中で文字を媒体とした造形美的な要素としても広く愛好されてきた。現代においてもその愛好の意識は連綿と続いており、ICT等情報機器が急速に発展・普及する時代においても、書の美意識や技術習得を求める声は絶えない。

本校の特色として総合学科、生活デザイン科の2学科が設立されている。各学科1年次では基礎科目を共通で履修し、2年次以降は各自の進路・適性に合った専門の系列・コースを選択することで知識・技能の習得や自己実現に向けた学習活動を行っている。基礎的な学力の定着を図るだけでなく、部活動を通して個性の尊重や奉仕の精神を重んじ、また国際化、情報化の社会に対応すべく専門的な学習を通じて地域社会で活躍できる生徒を輩出すべく、日々教育活動にあたっている。

生徒の実態は、各学科とも素直で実直に物事に打ち込む姿勢の生徒が数多く見られる。そのため学校全体の雰囲気も落ち着いたものだと感じている。反面、寡黙で反応に乏しいときも見られ、積極性をもって中核的に取り組む生徒は少数である。大半の生徒が学習などにおける成功体験に乏しく、学習の理解度を確認する際にも自信がないからという理由で消極的になる生徒が多い。授業など学校生活における成功体験を多く取り入れることを意識して、書道の取り組みの中でも達成できている箇所を常に認める工夫を心がけ、指導計画も生徒の学びに応じることができるよう考えている。そうした活動によって、生徒それぞれが自信を付けることで物事における積極的な思考力や行動力の習得に繋がるよう取り組みを行っている。

特に本単元では漢字の書を扱い、書道史における能書家の生み出した造形美を自分たちの手で表現できるという達成感を持たせたいと考えている。五書体の中でも変化に富んだ行書体を扱うことで、自身の思いを自由に表現できると考え、書道文化の奥深さに触れてもらうことを目指して設定した。具体的には、既習の行書の古典を生かし、自分で選んだ文字（言葉）を創作して、ハンカチというクラフトとして染で仕上げることを本単元において取り組む。岐阜市は地域の特色として、戦後よりアパレル産業で経済を牽引してきた歴史があり、団塊の世代以前の女性はほぼミシンの取り扱いができるほど市民に浸透してきた産業である。本校の前身である岐阜三田高校・岐阜藍川高校においても被服に関する学習が盛んに行われており、特に岐阜三田高校では服飾科・ファッション科と専門に取り組む学科が設置されていたほどである。その流れを引き継ぐ本校だからこそ、完成した布生地をハンカチとして整える活動も行い、家庭科授業とも関連させた横断的学習も取り入れ、書表現の実践を生活デザインという領域の中で展開することを本単元として設定した。

<学習指導要領との関連>

高等学校学習指導要領の書道Ⅰの目標に、「書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあり、さらに「B鑑賞」では生徒が育成することを目指す資質・能力のうち、ア「思考力・判断力・表現力等」に関する事項で、(イ)「生活や社会における書の効用」とある。また新学習指導要領の実施にあたり、岐阜県では「能動的に学習を深めているか」「書への永続的な愛好心は育めたか」「表現と鑑賞の相互の関連は十分か」などといった項目を注視している。

高校一年生を対象とした本科目において、課題として設定された臨書学習では古典の特徴をよく理解することに努め、表現しようとする活動の様子が見受けられるが、その特徴を活用した創作学習などの応用的な活動に取り組む際には、生徒にとっても主体的に意図や表現を構想する活動が困難だと感じられる場面が想定される。カリキュラム上、本校では書道Ⅰの学習のみの履修ではあるが、思考力・判断力・表現力等の育成を図るために生徒同士の意見交換や表現、構想・工夫の見直しを行うことやICTの活用による工夫を取り入れてきた。その上で本校において、「生活や社会における書の効用」を取り入れるべく、生活や社会の中で活用できる書表現に着目し、活動を通じながら作品を作り上げ、身近に書の魅力に触れることを主題とした。

<育てたい資質・能力>

本校、岐阜県立岐阜城北高校は「至誠・進取・錬磨」の校訓のもと、何事にも誠実に、積極的に取り組む生徒の育成を目指している。またグラデュエーション・ポリシーにある「主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒」や「社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒」を育成するために、カリキュラム・ポリシーである「主体的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成することを目指していることから、本単元においてその資質・能力の育成を図りたいと考える。

今回、発表として参加するのは生活デザイン科の生徒であるが、総合学科の生徒も含め、本校は実業的・実践的な学びに繋げる専門カリキュラムが多岐に渡り展開されている。専門分野に特化したカリキュラムの中で学ぶ生徒に、書道がどのような形で学びの柱となるのかを考え、布生地に筆で文字を書き作品化する活動を行うこととした。表現したい思いをもとに古典を基盤とした文字造形を表現することは通年のテーマであり、様々な古典を通じ、より多くの表現の幅を意識させたいと考える。布生地を最終的な題材とすることは岐阜の風土に根ざした活動であり、岐阜城北高校に勤めているからこそ実践できる活動だと感じている。これらの活動が、生徒にとって学びの活力の一助となるよう授業の構成を考えていきたい。

1 単元名 「行書の創作」(「漢字の書」単元⑥)

2 本単元に関連する内容のまとめ

- ・「A表現」(2) 漢字の書 及び〔共通事項〕(1)
- ・「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

3 芸術の目標と評価の観点及びその趣旨

	(1)	(2)	(3)
目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(高等学校学習指導要領 P. 141)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙5 P. 3, 4)

4 書道 I の目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	書の表現の方法や形式, 多様性などについて幅広く理解するとともに, 書写能力の向上を図り, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組む, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指要領 P. 157)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 単元構成

「A表現」(2)「漢字の書」 総時間数 34 時間

単元①：＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑，九成宮醴泉銘）

全 6 時間

単元②：＜楷書＞書風と線質（筆圧の変化）（雁塔聖教序，顔氏家廟碑）

全 6 時間

単元③：＜楷書＞楷書の創作

全 4 時間

単元④：＜行書＞行書の運筆の基本と書風（蘭亭序，風信帖）

全 6 時間

単元⑤：＜行書＞行書の書風と線質（蜀素帖）

全 3 時間

単元⑥：＜行書＞行書の創作

全 4 時間 【本単元】

単元⑦：篆刻作品制作

全 5 時間

6 単元目標

(1)「知識及び技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。

(2)「思考力,判断力,表現力等」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫する。
- ・創造された作品の価値とその根拠や生活・社会における書の効用について考え、書のよさや美しさについて味わって捉える。

(3)「学びに向かう力,人間性等」

- ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
- ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味・価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

7 内容のまとめりごとの評価規準

「A表現」(2)漢字の書 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・古典の線質，字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 	<p>主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 	<p>主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。		
----------------------------	--	--

8 単元の評価規準

(1) 「知識・技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知表)
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(知鑑)

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。(技)

(2) 「思考・判断・表現」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫している。(思表)
- ・創造された作品の価値とその根拠や生活・社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(思鑑)

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態表)
- ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味・価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態鑑)

9 単元の指導と評価の計画

・年間授業時数・・・ 70 時間 ・「漢字の書」・・・ 34 時間 ・本単元の配当時数・・・4 時間

(1) 指導と評価の計画 (概要)

	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑	
単元⑥	第1次 2時間 (本時はその2時間目)	言葉の選定							
		観点の確認①(紙面構成)							
		構想・工夫①	◎			◎			
		作品制作①(墨書)			◎				
		観点の確認②(古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成)							
		構想・工夫の見直し①	●			●			
		作品制作②(墨書)			●				
		自己評価①					◎		◎
		相互鑑賞・意見交換		◎			◎		◎
		構想・工夫の見直し②	◎			◎		◎	
		学習のまとめ①						●	
	◎指導に生かす評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	●記録に残す評価	●		●	●		●		
	第2次 1時間	鑑賞①(布書作品)		◎					
		観点の確認③(布書きのための用具・用材の特徴と表現性・表現効果との関わり)							
		構想・工夫の見直し③	◎			◎			
		作品制作応用(布書き)			◎				
		自己評価②					◎		
		学習のまとめ②							◎
		◎指導に生かす評価	◎	◎	◎	◎	◎		◎
●記録に残す評価									
第3次 1時間	観点の確認④(生活や社会における書の効用)								
	鑑賞②(最終発表会)		◎			◎		◎	
	自己評価③		●						
	単元の学習のまとめ					●		●	
	◎指導に生かす評価		◎			◎		◎	
●記録に残す評価		●			●		●		

※「学習活動」の網掛け部が本時

(2) 単元における観点別学習状況の評価方法

評価の観点と単元の評価規準		<p>○「おおむね満足である」状況（B）の例</p> <p>◎「十分満足できる」状況（A）の例</p> <p>◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て</p>
知識・技能	知表	<p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>○用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、おおむね理解している。</p> <p>◎用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、構想・工夫したり意見交換で言語化したりする活動を通して実感的に理解している。</p> <p>◆用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に理解できるよう支援する。</p>
	知鑑	<p>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <p>○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、おおむね理解している。</p> <p>◎線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、相互鑑賞をしたり意見交換で言語化したりする活動を通して実感的に感受し、理解している。</p> <p>◆線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に味わい理解できるよう支援する。</p>
	技能	<p>・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。</p> <p>○古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能をおおむね身に付けている。</p> <p>◎古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付け、表現性・表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で、技能を更に高めている。</p> <p>◆学習活動を振り返らせたり、ICTを活用して画像等を再度確認させたりして、表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思表	<p>・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫している。</p> <p>○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について構想し工夫し、おおむね自身の考えを言語化している。</p> <p>◎古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成や意図に基づいた表現について深く考えて構想し工夫し、知識を活用して自身の考えを適切に言語化している。</p> <p>◆意見交換で他者の見方・考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、構想・工夫とその見直し、再構築に取り組めるよう支援する。</p>

	思鑑	<p>・創造された作品の価値とその根拠や生活・社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わっている。</p>	<p>○創造された作品の価値とその根拠や生活・社会における書の効用について考え、書よさや美しさをおおむね味わって捉え、自身の考えを言語化している。</p> <p>◎創造された作品の価値とその根拠や生活・社会における書の効用について自らの生活と関わらせて考え、書よさや美しさを深く味わって捉え、自らの考えを適切に言語化している。</p> <p>◆意見交換で他者の見方・考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、書よさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態表	<p>・自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現の学習活動にねばり強く取り組もうとしている。</p> <p>◎自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現の学習活動に、計画的に自らの学習を調整しながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◆学習した行書の書風や表現効果、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。</p>
	態鑑	<p>・書よさや美しさを感じ、作品や書の意味・価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○書よさや美しさを感じ、作品や書の意味・価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎書よさや美しさを感じ、作品や書の意味・価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。</p> <p>◆学習した行書の書風や表現効果、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者の見方・考え方を振り返らせ、行書の書風及び自他の作品のよさや美しさを感じ、主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。</p>

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

ア「知識・技能」

(ア)「知識」

【知表】・・・(評価対象) ワークシート、活動の様子（意見交換における発言）等
(学習活動)「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等

【知鑑】・・・(評価対象) ワークシート、活動の様子（意見交換における発言）等
(学習活動)「相互鑑賞・意見交換」「鑑賞」「自己評価」等

(イ)「技能」

【技】・・・(評価対象) 作品 等
(学習活動)「作品制作」等

イ「思考・判断・表現」

【思表】・・・(評価対象) ワークシート、作品、活動の様子（意見交換における発言、作品制作における取組状況）等

- (学習活動)「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等
- 【思鑑】・・・(評価対象)ワークシート、活動の様子(意見交換における発言等)等
- (学習活動)「自己評価」「相互鑑賞・意見交換」「鑑賞」「単元の学習のまとめ」等
- ウ「主体的に学習に取り組む態度」
- 【態表】・・・(評価対象)ワークシート、活動の様子(作品制作における取組状況)等
- (学習活動)「構想・工夫の見直し」「学習のまとめ」等
- 【態鑑】・・・(評価対象)ワークシート、活動の様子(意見交換における発言、鑑賞活動における取組状況)等
- (学習活動)「相互鑑賞・意見交換」「学習のまとめ」「鑑賞」「単元の学習のまとめ」

(4) 本時における学習過程と評価の具体

単元⑥「行書の創作」第1次(2時間)の学習計画【本時はその2時間目】

	活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の方法					
					◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価 「観」活動の様子 「ワ」ワークシート 「作」作品					
					知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑				
第1次 2時間 本時はその2時間目	導入	5分	○言葉の選定 ・自身の表現したい文字(1～2文字)を選び、表現の意図を思い描いて、選定・決定する。 ○観点の確認① ◎紙面構成(文字の大小、全体構成等) ・文字の大きさや紙面に配置する位置などによって作品の表現が変化することを理解する。	・言葉の選定が困難な場合は、いくつかの例を提示し、既習の古典画像を参考にしながら支援する。(ICTの活用) ・タブレットによる編集の方法の提示し、紙面構成による表現効果を確認して、構想・工夫につなげるように支援する。(ICTの活用)				ワ		
			○構想・工夫① ・制作する作品について、ワークシート1(タブレット)に表現の意図を記入し、それに基づく紙面構成を構	・自らの表現の意図について、特に紙面構成の観点から構想し、作品制作に繋げることができるよう支援する。	ワ ◎			ワ ◎		

		<p>カメラで撮り、完成図をワークシート2 (タブレット) の編集をする。</p> <p>○自己評価①</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート2に表した作品の自己評価を記入する。 <p>○相互鑑賞・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者との作品共有・相互鑑賞を行い、行書の書風に即した工夫や表現の意図など相互に考えを伝え合う。意見として出た新たな見方・考え方に触れ、自身の見方・考え方を再構築し、活用すべき意見をワークシートAに手書きする。(グループ活動) 各グループで出た意見を全体で共有し、それぞれの工夫した表現や総括的意見を捉え、意図に基づいた表現の仕方について気付いた点をワークシートAに手書きし、再認識させる。 	<p>よう机間指導支援する。(ICTの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価が適切に行えない場合は、自身が構想した表現の意図を再確認させ、表現の工夫点(線質、字形、構成、余白)について考えるよう促し支援する。 他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう留意させ、支援する。 意見交換において、発表者は表現の意図や工夫点を分かりやすく伝えられているか、他のメンバーは作品の感想やそれぞれの見方・考え方を適切に伝えているか留意する。またワークシートAにある語彙群を参考にすることで適切な発表ができるよう働きかけ支援する。 各グループで出た意見を取り上げ、作品画像とともにメタモジで全体共有し、自身と他者との表現の違いなどに着目するよう支援する。(ICTの活用) 	ワ	ワ	ワ	ワ
まとめ	7分	<p>○構想・工夫の見直し②</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞・意見交換で出た意見をもとに、自己の表現を再度見直 	<ul style="list-style-type: none"> 他者からの意見を見返し、活用の仕方や構想の見直しが困難な場合 	ワ	ワ	ワ	ワ

	<p>し、次時の作品応用（布書）に向けた必要な修正と改善点をまとめ、ワークシートAに手書きする。</p> <p>○学習のまとめ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を振り返り、自身の意図に即した表現に近づくことができたか、また一連の活動とそこで気付いた見方・考え方の変化などをまとめ、ワークシートAに記録する。 	<p>は、自身の表現と比較して有用な意見や活用できる点を判断するよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめや振り返りが適切に行えない場合は、自身が構想した表現の意図を再確認させ、そこから変化した見方・考え方について考えるよう促し支援する。 						<p>ワ</p> <p>●</p>	
<p>◎指導に生かす評価</p> <p>●記録に残す評価</p>		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

※「活動の流れ」の網掛け部が本時



(1) 成果

本単元は漢字の書を扱い、古典に基づく造形美を自分たちの手で表現できるという達成感および自身の思いを自由に表現できる書道文化の奥深さに触れてもらうことを目標に設定した。この授業を通じて、生徒が書表現の追求に主体的に取り組む姿勢や他者との交流による幅広い表現活動の相互確認といった動きを見ることができた。一時間という限られた中でやや内容を詰め込んだ感があったが、それでも今回の発表で生徒は活動することができたと感じている。自己評価から作品を改善し、それをまた他者からの鑑賞を通じて、よりよく作品を仕上げていくという一連の流れも生徒にとって大きな成果の一つとなった。授業研究としては指導案に挙げたように進めたが、その後の展開として、創作した文字をハンカチに染で仕上げることに取り組んだ。布生地に筆で文字を書き、作品化する活動を行うことで、より多くの表現の幅を意識させたいと考えた。また布生地を最終的な題材とすることは本校に勤めているからこそ実践できる活動だと感じての計画でもあった。結果的には生徒それぞれが選んだ布に染で文字を仕上げ、家庭科との連携のもと、ミシン器具を用いて、およそ30センチ四方のハンカチに仕立て、それをクラスごとの鑑賞会に用いた。生徒の反応として、通常半紙に墨書する作品制作が主となる活動と違い、使用する用材が異なることで同じように筆書したつもりでも線質など変化した作品となることに気付いている様子であった。また自身で選んだ文字を、自身のオリジナルの道具として仕上げた体験は生徒の感想からも非常に好評であり、書道の技能を通じた新たな表現方法の一部に触れてもらえたのではないかと感じている。そこから普段の生活における書の活用や鑑賞の着眼に結びつけるに至ったことで、本単元の成果として生徒にも感じてもらえたと思う。

(2) 課題

課題点としては授業展開の要所改善が挙げられる。まず前時作成の作品を朱ペンで自己添削をする際、基準を明確に示す必要があると感じた。古典を基盤に制作する方針を可視化できるよう工夫が必要であり、例えば次年度に改善する場合には、今年度の生徒作品を例に挙げて示すなど長期的な授業設計も考えてみようと思う。

また臨書学習寄りの制作に傾倒する生徒も見られた。特に少字数ということもあり、創作書における線引きは難しいと常々感じる。これに関しては文字数を二字書以上に設定するなど次年度に試行してみたいとも考えるが、年間を通じて仮名・漢字仮名交じり書などにも触れる中で、創作書の在り方を少しずつ生徒に理解してもらえるように活動内容を吟味していきたい。

そして授業時の指導者の発言や用語の使い方にも気を配る必要がある。日常的に字形・構成・線質などの用語を用いて生徒に意識させることで、グループでまとめた発表を促す際にもそれら観点の筋道立てができていれば深い学びにつながっただろう。そうした授業の細部をより洗練させていくことで、墨書の時間ももう少し伸ばすこともできたかもしれない。

本研究において、これからの書道教育でICT活用や観点別評価など新しく取り入れるべき手法を図りながら授業計画を行う必要性を感じた。生徒の資質も時代や環境によって様々な様相を見せるため、画一的な一辺倒の指導では生徒の資質能力の育成につながらない。その上で今回の授業計画、指導案作成にあたり様々な先生方にご助言いただき、一つの形に仕上げることができた。今回の授業研究を県内外の先生方とも共有し、今回の指導案フォーマットに落とし込む形で、今後の指導へと発展・活用させていきたい。

1 1 年間指導計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面 ・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	オリエンテーション	書写から書道へ 漢字の書体の変化	1	<ul style="list-style-type: none"> 書写と書道の違いについて理解し、学習への心構えを確立する。 基本的な姿勢・執筆や用具・用材を理解する。 古典の鑑賞及び臨書を表現に活かすことの大切さを理解する。 漢字五書体の登場する時代を知り、書体の特徴と変遷を理解する。 	発言、傾聴の様子 発言、傾聴の様子 発言、傾聴の様子 発言、傾聴の様子	○		○
5	漢字の書①	<楷書>書風と結構法 (孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘)	6	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の特徴と成立過程について理解する。 書道史における唐時代の位置づけと、唐の四大家について理解する。 孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑の概要と筆者について理解する。 	発言、傾聴の様子 発言、傾聴の様子 ワークシート ワークシート	○		
	漢字の書②	<楷書>書風と線質(筆圧の変化) (雁塔聖教序、顔氏家廟碑)	6	<ul style="list-style-type: none"> 孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑を鑑賞し、字形の特徴や書風を理解する。 孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑の用筆と字形の特徴を理解し、臨書する。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	活動の様子、作品 振返り用紙、作品	○	○	○
7	漢字の書③	<楷書>楷書の創作	4	<ul style="list-style-type: none"> 創作の手順を理解し、作品の構想を練る。 創作例を参考にして、表現したいイメージを考え、紙面構成等に配慮して創作する。 古典の学習を活かして字形や筆遣いなどの工夫をして創作する。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	発言、傾聴の様子 活動の様子 活動の様子、作品 振返り用紙、作品	○	○	○
	漢字の書④	<行書>行書の運筆の基本と書風 (蘭亭序、風信帖)	6	<ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴と成立過程について理解する。 蘭亭序、風信帖、蜀素帖の概要と筆者について理解する。 蘭亭序、風信帖、蜀素帖を鑑賞し、字形の特徴や書風を理解する。 蘭亭序、風信帖、蜀素帖の用筆と字形の特徴を理解し、臨書する。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	発言、傾聴の様子 ワークシート ワークシート	○		
10	漢字の書⑤	<行書>行書の書風と線質 (蜀素帖)	3	<ul style="list-style-type: none"> 蘭亭序、風信帖、蜀素帖の用筆と字形の特徴を理解し、臨書する。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	活動の様子、作品 振返り用紙、作品	○	○	○
	漢字の書⑥	<行書>行書の創作	4	<ul style="list-style-type: none"> 創作の手順を理解し、作品の構想を練る。 創作例を参考にして、表現したいイメージを考え、紙面構成等に配慮して創作する。 古典の学習を活かして字形や筆遣いなどの工夫をして創作し、その後布に仕上げる。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	発言、傾聴の様子 活動の様子 活動の様子、作品 振返り用紙、作品	○	○	○

11	仮名の書①	仮名の運筆の基本 (単体、変体仮名、 連綿)	5	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の成り立ちや特徴を理解する。 仮名の基本線を理解して単体を書く。 仮名の流動美に連綿の法則があることを理解する。 連綿の法則や筆脈、腕の動かし方に配慮して書く。 	発言、傾聴の様子 活動の様子 ワークシート	○	○	○
	仮名の書②	仮名の書風 (蓬莱切、升色紙)	6	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの古典の特徴を理解する。 リズムカルな運筆や連綿を多用した字形を理解し、臨書する。 	活動の様子 発言、傾聴の様子 作品	○	○	○
	仮名の書③	仮名の創作	6	<ul style="list-style-type: none"> 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 高校生活をテーマにした川柳を作る。 短冊に自作の川柳を工夫して書く。 	振り返り用紙、作品 ワークシート 活動の様子、作品	○	○	○
12	漢字仮名交じりの書①	年賀状	5	<ul style="list-style-type: none"> 実用的な書の大切さを知り、自分なりの表現について考える。 年賀状の書式を理解し、工夫して年賀状を書く。 言葉が人の心を動かすことを理解し、創作への関心・意欲を高める。 	発言、傾聴の様子 活動の様子、作品 発言、傾聴の様子		○	○
	漢字仮名交じりの書②	カレンダー制作	5	<ul style="list-style-type: none"> 題材のイメージをもとに、漢字と仮名を調和させて書く方法を理解する。 カレンダーに書く言葉を考え、表現したいイメージを見つけ出し、紙面構成等に配慮して制作する。 	ワークシート 活動の様子、作品	○		○
	漢字の書⑥	<篆刻>篆刻作品制作	5	<ul style="list-style-type: none"> 篆刻の特徴とその成り立ちを理解する。 基本的な姿勢・運刀や用具・用材を理解する。 字形の特徴を理解し、姓名印を刻す。 自己の作品を振り返り、用紙にまとめる。 	発言、傾聴の様子 ワークシート 活動の様子、作品 振り返り用紙、作品	○	○	○
1	漢字仮名交じりの書③	漢字仮名交じりの創作 学習のまとめ	8	<ul style="list-style-type: none"> 半切サイズの紙面に表現意図を明らかにして紙面構成や書風を工夫して創作する。 用筆・運筆による表現効果や全体構成、漢字と仮名の調和等について理解を深める。 	活動の様子、作品 活動の様子、作品		○	○
			70					

1 2 参考資料・参考文献等

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成31年2月）、株式会社 東山書房
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』（平成31年3月）、教育図書株式会社
- ・文部科学省初等中等教育局通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術（書道）】』（令和3年11月）、株式会社 東洋館出版
- ・『書I』（令和4年）、光村図書株式会社

〈資料〉
ワークシート1

【行書の学習（創作）】ワークシート1

組氏名

○古典の特徴を生かして、書体や書風、紙面構成を工夫して作品制作をしよう。

【言葉の選定】草稿の作成
「他者に伝えたい思いや心情」「表現したい思いや効果」について自分なりに考え、自身の「表現の意図」と「書きたい文字」について記録しよう。

【観点の確認】紙面構成
文字の大小や紙面に配置する位置による、作品表現の変化を確認しよう。

表現の意図（どんな雰囲気・イメージで表すか）

墨色の変化
(イメージする墨色)
いづれかを選ぼう

△参考にした古典▽ いづれかを選ぼう

蘭亭序（王羲之） 風信帖（空海）

争坐位文稿（顔真卿） 蜀素帖（米芾）

黒々とした墨色

にじみの効いた墨色

【構想・工夫】
布地、検字した文字を写真に撮り、草稿として編集しよう。

雅

【作品制作】
編集した草稿を参考に、一度半紙に書いてみよう。

ワークシート2

【行書の学習（創作）】ワークシート2

組氏名

○古典の特徴を生かして、書体や書風、紙面構成を工夫して作品制作をしよう。

【観点の確認】古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成
行書学習で学んだ古典の書風を確認し、線質、字形、構成、余白など特徴が取り入れられているか確認しよう。

【構想・工夫の見直し】
書いてみた作品を振り返り、線質や字形などの面から修正する箇所を朱の筆ペンで書き入れよう。

【自己評価】
所定の用紙に書いた作品を左枠に編集し、自己評価欄に
「線質」「字形」「構成」「余白」について触れながら記入しよう。

雅

【相互鑑賞・意見交換】
ワークシートA（プリント）を使用し、相互鑑賞・意見交換をしよう。

ワークシートA

【行書の学習（創作）】ワークシートA 年 組 氏名

・作品を鑑賞し、書き手の意図に基づいた表現の工夫を理解して、相互評価します。
・他者との作品鑑賞・相互評価を、作品の構想・工夫の見直しに活かそう。

【意見交換（鑑賞方法）】

① 発表者を決め、自分の作品の意図や表現のポイントを説明します。（1〜2分程度）
② 他のメンバーは発表に対して、「線質・字形・構成・余白」のどれかに触れて、感想などを話します。
③ 発表者は、受けた意見・感想をメモします。

自分の作品に対して他のメンバーから出た意見

（参考）書表現の特徴を表す語彙を増やして、意図の説明や感想に役立てましょう

字形の特徴		線質		構成		余白	
縦（横）長	重厚・どしりしている	ゆったり	空間がある	紙面全体に対し余白が多い			
左（右）に傾いている	軽やか・リズムミカル	凝縮されている		少ない			
安定感・落ち着いている	線に肥渾の変化がある	力強い・堂々としている		特定の方向に余白が多い			
躍動感・勢いがある	線に抑揚がある	のびやか・流れがある		少ない			

全体共有したときに出た他のグループの意見

【構想・工夫の見直し】

全ての発表と意見交換が終わったら、挙げられた意見を参考に、改善に向けての計画を記入しましょう

【学習のまとめ】

完成した作品を振り返って意図に基づいた表現に近づけましたか。これまでの活動で気付いたことなどを記入しましょう

パワーポイント（観点の確認②）

行書の特徴

曲線的で連続することが多い

点画が省略されることがある

楷書と筆順が異なることがある

点画が変化することがある






「蘭亭序」の書風

・流れの中に抑揚を利かせた用筆



・筆脈によって生み出される

多様な字形

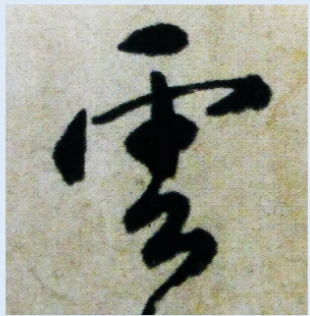


盛一觴一詠上足以暢叙幽情
 是日也天朗氣清惠風和暢仰
 觀宇宙之大俯察品類之盛
 所以遊目騁懷足以極視聽之

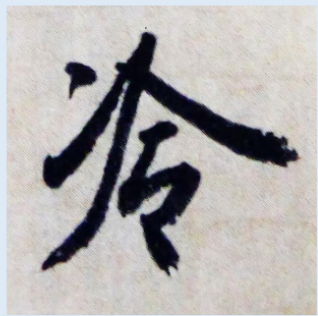
(上 参照：『書 I』(2022) 光村図書 (掲載許諾済み))

「風信帖」の書風

・重厚感のある用筆



・安定した文字の字形



風高雲垂自天翔以
 披之閑之如揭雲霧慧
 惠止觀妙門頂戴供

「蜀素帖」の書風

・筆圧の大胆な変化

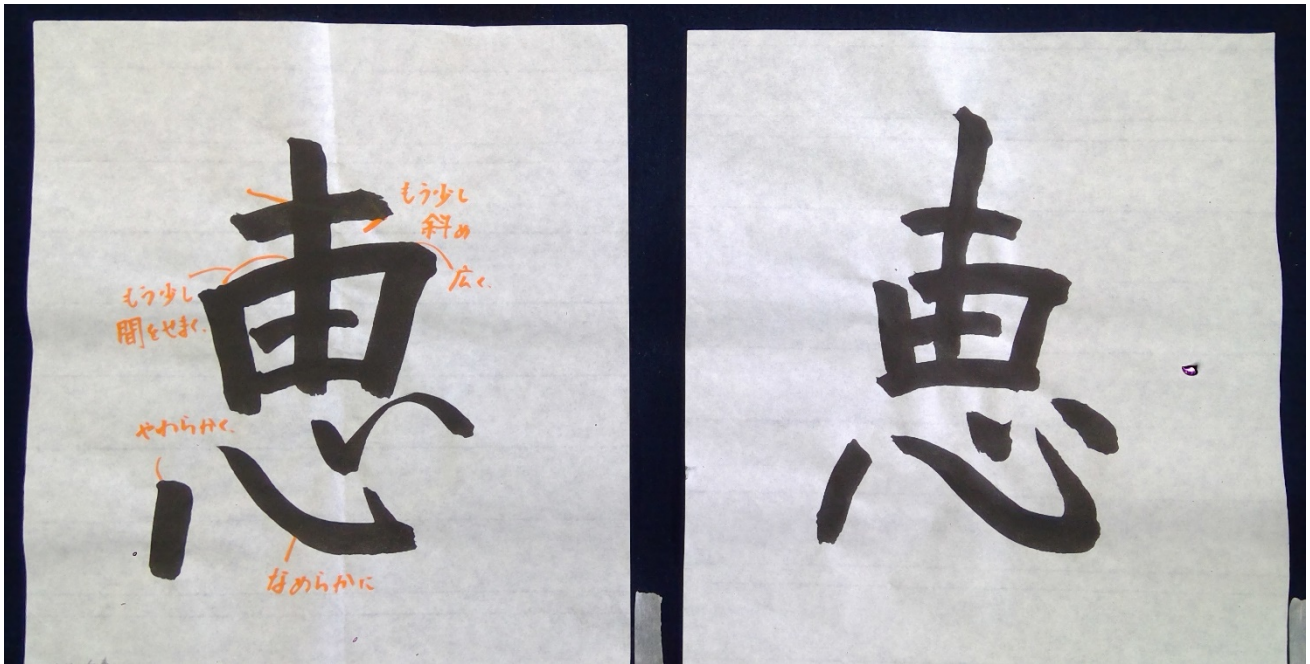


・縦長で左に傾いた独特の字形



(上 参照：『書 I』(2022) 光村図書 (掲載許諾済み))

自己添削（構想・工夫の見直し①）



（左側）・もう少し斜め ・広く ・もう少し間を狭く ・やわらかく ・なめらかに など記載

相互鑑賞・意見交換

<p>心の2画目が滑らかに書かれているので、柔らかい印象がありました。</p>		<p>二文字とも線が太くて力強くかけている。</p>	
<p>一文字だけ余白が少ない線が細くめいと同じで柔らかい印象をかんじた</p>			<p>がついて</p>
<p>恵の心が柔らかい印象になっていて良いと思った。</p>			<p>いがまし</p>
<p>未の4, 5画目がつながっていないことで行書らしい字になっていると思いました。</p>			<p>いいと思いました。</p>
<p>形が整っていいと思ったし、未来の最後のほらいが楷書と違って行書になっていていいと思いました。</p>			<p>力強い字で、迫力があっていいと思いました。</p>
<p>文字はつながっていないけれど字形は行書らしさを感じなければバランスよくかけていい</p>			

生徒作品例

